

**[論評] 反日愛国主義の熱風に乗じて労働改悪を試みる文在寅政府を糾弾する。
-何かといえば労働者の犠牲を要求する歴代政権の悪い習性を踏襲**

文在寅政府が日本の経済報復(韓国への輸出規制)措置に対応するという口実で労働改悪を試みている。反日愛国主義を過度にそそのかして政治的に利用するだけでは足りず、問題さえ生じれば労働者の犠牲を要求してきた歴代政権の悪いクセをそのまま踏襲している。

去る7月22日、雇用労働部長官イ・ジェガプは、『輸出規制品目の国産化のための研究開発(R&D)、第3国代替調達関連テストなどの関連研究および研究支援などに必要な必須人材に対して勤労基準法に基づく特別延長勤労を認可する予定』だと話した。週12時間である延長勤労制限を解除して、それ以上仕事ができるように許容するという意味だ。

問題はここで終わらない。日本が戦略物資の輸出時の通関手続を簡素化する友好国(ホワイトリスト)から韓国を排除するなど輸出規制を拡大すれば、延長勤労の許容対象となる企業が増えるものと見られる。イ・ジェガプ長官は、『今、確定したことは3個の物質』としながら『ホワイトリストから除外されるならば除外された物質のうちで(国内で生産できない)ものがあるのか見なければならず、韓国経済に甚大な影響を及ぼしかねないのかも判断しなければならない』と語った。事実上、大韓民国のすべての労働者に労働時間延長を強要する勢いだ。

今、ソウルの江南(カンナム)駅交差点鉄塔の上には、サムスンで解雇されたキム・ヨンヒさんが高空座り込みをしている。今日で高空座り込み46日目であり、断食闘争53日目でもある。労組を許容しない悪徳企業サムスン財閥に対抗して命をかけて戦っているのだ。

ところが、最近の愛国主義の熱風は、悪徳財閥サムスンの総帥イ・ジェヨン我突然愛国者に変身させた。このような形ならば、特別延長勤労、弾力勤労制などに反対する労働者を非愛国者に追いやることもできる状況だ。

文在寅政府は、労働政策の逆回りでも足りずに、労働改悪に向かって進んでいる。嘘とトリックで貫かれた文在寅政府の労働政策を強く糾弾する。

2019年7月25日
労働党